

## 第3者に農業を継承 農家の協力と、地域政策が大切

農村における高齢化と後継者不足が進む中で、血縁のない人への農業経営の継承（第3者継承）が注目されています。

「第3者継承に関するセミナー」が18日、山大農学部で開かれました。農研機構（本部・つくば市）の山本淳子氏が基調講演を行いました。

**有形・無形資源を新規就農者に渡す**  
第3者継承は、親族で後継者がいない場合、農地や施設、機械などの有形資源と、技術・信用などの無形資源を、

新規就農者などに渡すことです。

譲る人（移譲者）は、これまで築いてきた事業と信用が続いていきます。

譲り受ける人（継承者）は、一定規模から経営を開始でき、地域に合った技術を学ぶことができ、これまでの販路を利用できるなどメリットがあります。

### 半数近くが中止に

実際には、マッチング（事前研修）で、両者の適正と相性を確認し、合意書や契約書を作成し、関係機関や専門家による支援が必要になります。

山本氏は、施設野菜や米、野菜栽培での成功事例と、失敗事例についても紹介しました。

平成20～29年度の農業経営継承事業（全国農業会議所）では実践研修が108組おこなわれ、うち49件が中止になったと述べました。

その後、実践者交換が行われ、鶴岡市の農業経営者育成学校SEADSI期生で、藤島・宝徳に移住し、平飼い養鶏を継承している佐藤直樹氏と、移譲者の加藤鋳一氏も報告しました。

加藤氏は、集落の農家も協力し、全体で地域農業を守ろうとする取り組み（地域政策）が大切と述べました。

JA庄内たがわ ふれあい交流会

I fell in love with you at first sight.

**Sweet Valentine Party**

2022 2/26 (sat) 14:00~17:00 (受付開始 13:30)

開催場所 **グランドエル・サン**

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の状況により中止の可能性がございます。

募集人数 男女各20名（応募多数の場合は抽選となります）

対象者 20歳以上の独身男女

参加費 男性 4,000円 女性 2,000円

お申込方法 令和4年2月4日迄、JA庄内たがわ総務部総務課へ電話、FAX、メールのいずれかの方法で  
①お名前 ②生年月日 ③ご連絡先 ④お仕事をご連絡ください。後日、参加者の方へ直接詳しい日程等をお知らせ致します。

お問い合わせお申し込み先 庄内たがわ農業協同組合 総務部 総務課  
TEL.0235-64-3000 FAX.0235-64-5742 E-mail seikatsu@ja-shonai.or.jp または、各支所管理課までお申し込みください。

JA庄内たがわの主催で、婚活イベント  
2月26日（土）、グランドエル・サンで行われます。  
男女各20人の参加者大募集です。  
○申込先：「庄内たがわ農業協同組合  
総務部 総務課 TEL：0235-64-3000

## 藤沢周平を読む②1

鈴木重雄（八色木）

「どげだつもりだもんだが。おらにはさっぱりわからね」  
「きぐちゃん、やんだがねか」  
婆は顔をしかめた。「山伏どの顔みると泣くもんださげ、家の衆もやめでくれと頼んだなだども。あの山伏どは雷みでえなもので、ンだば、あねコの足なおらねてええがって、怖かねえ声で恫すもんださげ。どもならなくて、見ているなだ」

きくは小柄であるが、年ごろの娘である。男の背に負われて、足萎えの身体を人眼にさらすことが辛くないはずはなかった。  
「はじめは泣くけんども、最近はおぎらめだよだの」  
利助に言われて、おとしはそのときの婆の話の思い出していた。

大鷲坊はあれから10日たつのに、まだきくを背負って村を歩いているのだ。  
「何やってるもんだが、わけわかんね」  
「背負って歩いて、足が立つもんだば、世話ねえで。あの山伏ど、どげだ始末つけるもんだがの」  
村の分かれ道にくと、利助はそう言い、高笑いして別れて行った。大鷲坊の奇矯な行動に揶揄がこめられていたようだった。

大鷲坊がおきくを背負ってお祭りに行くとおとしは「きぐちゃん」と声をかけた。「おつ」と大鷲坊が振り向いた。

おきくはおとしを見らると、僅かに顔を赤らめたが、それほど恥じる様子もなく、微笑しているのが意外だった。  
おとしはなんとなく胸がつまるような気がした。ひと月前になるあの日は、薄暗い奥座敷で、やせて眼ばかり美しく寝ている姿を思い出したのである。

死霊は、おきくを離れたのだろうか。立つてなくても、いま大鷲坊の背で微笑しているおきくは、もう病人ではないという気がした。立ち直らせたのが大鷲坊であることも明らかだった。

おとしは並んで歩きながら、大鷲坊に小声で言った。  
「鷲蔵さん、偉れえこと」  
「なあに、偉れえこととは無」  
大鷲坊は、まずあの暗い部屋からおきくを連れ出すことから始めたのだ。強引に連れ出し、日の光の下で生きているものを見せたのだ。鳥や、草や、人間が、嬉々として生きていく姿を、おきくに見せて回ったのである。

自然に生きるリハビリが一番である。  
大鷲坊は平たい石におきくをおろし、「小便してくっさげ、見ていてくれ」とおとしに言い置いて、人混みにまぎれて行った。

おきくの身体は柔らかさを取り戻し、背伸びして境内を眺め回っていた。

おきくは、おとしを見らると、僅かに顔を赤らめたが、それほど恥じる様子もなく、微笑しているのが意外だった。



# 藤島中学校3階学習室で 天井梁の化粧モルタルが落下

藤島中学校の3階学習室において、天井梁の化粧モルタルが、11日の午後3時50分頃、落下が発生しました(写真下・市教育委員会提供)。

落下は、化粧モルタルが最大で30cm×50cm程度、重量にして5kg〜10kg剥離し、落下したものです。

落下発生時には、生徒はいませんでした。

教育委員会管理課の職員6人が現場を確認し、これ以上落下しないよう、周辺部の化粧モルタルを剥がす処置を施しました。

他の教室等すべてを管理課職員が目視確認、及び打診検査を実施し、梁部分等にクラック等は確認されず、剥離する恐れのある箇所は認められなかったとのことです。

## 築後55年が経過

今後の対応については、

3階学習室は、安全性が確認されるまで、当面の間使用しない。早急に専門業者による校内全室の点検と調査を実施し、危険が認められた場合は教室等の使用を禁止し、安全対策を講じる。

市教委では3年に1回、全小中学校で特殊建築物定期調査を実施しているが、構造等が類似している学校の緊急点検を行う。

毎月の安全点検のほ

かに日常点検を強化する。ーとしていきます。藤島中学校の校舎は、

昭和42年度から43年度にかけて建築され、築後55年が経過しています。

藤島中学校の改築計画は、待ったなしです。



# ひと 井尻正二② 一緒に学習会、 今、井尻正 二に学ぶ

青山 崇

その頃私は、「母の歴史」「職場の歴史」運動を仲間たちと進めていた。

井尻先生はこの運動にも目をかけておられ、先生の自宅で学習会を開いてくれた。

テキストは、先生の『科学論』（発刊時『古生物学論』）であった。哲学的なものー「否定の否定」などの弁証法も出てくる厳しい学習会だった。

先生はそれを知ってか脱線してくれた。この頃、伊藤義訓『子ヤトレイ夫人の恋人』

裁判が行われ、ワイセツか否かで争われ、世間は騒がしかった。

「実はね、伊藤とは、従兄妹なんだよー」と少し照れて、伊藤整のことを色々話すというような調子だった。こつちの方が記憶に残っているよつた。

厳しい方も頭でなく身体になっていて、その後の私の教師や社会活動で役立つよつた。

「水野手紙」の「平易な形での発信」である。

発信と言えは著書に

『カラスのカー公』などの絵本シリーズもあることだ。

もちろん『化石』『地球の歴史』『日本列島』などの専門書もある。

著書60余冊、共著40余冊、合わせて100

冊余になる。

最後に、日本科学者会議編 雑誌『日本の科学者』、日本の科学者の雑誌である2021年3月号は、「今、井尻正二に学ぶ」を特集している(写真左)。



## さすがプロだぜ



ウソの被害で桜がダメになった報道を聞いているので、今年は何？

▲池の中心部に凍らな部分があつて、そこに白鳥や鴨類が集まっているんだが、すぐ傍の氷の上には、多分鷹の一種だろうと思える一羽の鳥が見える。

▲結構行き交う人が多いとは、散歩コースにしている人が多いんだろうか。そんな人達が気づかないだろう、緑鮮やかな吠状の繭をベテランが見つけた。ほとりあで学芸員に聞いたらすぐに答えが。ウスタビガと言つんだと。

▲忘れないうちにと、藤島の図書館に図鑑を見に行ったんだ。司書さんに高館山の話をしたら、5分とかからずに見つけたんだつて。学芸員さんも司書さんも、さすがはプロだぜ。

▲ウサギの足跡があつた。確認できた鳥は、小白鳥に真鴨、四十雀と尾長だった。(石川)